

# 令和元年度下水道事業会計 決算の概要（説明資料）

- 注1) この資料は「令和元年度下水道事業会計 決算の概要」の主な項目の説明資料となります。
- 注2) この資料中の金額は、百万円未満を切り捨てております。
- 注3) 資本的収入及び支出については、支出・収入の順でご説明しております。

令和元年度につきましては、長期的な視点を持ちながら計画的・安定的に下水道事業を実施することを目的として策定した「札幌市下水道事業中期経営プラン2020(2016～2020)」に基づき、事業を執行いたしました。

## 1 決算総括表について（1頁）

### (1) 収益的収入及び支出

「収益的収入」は、①の516億3,800万円となり、予算に対して、12億1,200万円の減収となりました。

このうち、主たる収入である下水道使用料は、家事用の調定金額は増加したものの、業務用の調定金額が減少したことなどにより、予算に対して、2億3,000万円の減収となりました。また、一般会計負担金等については、その負担対象となる維持管理費の減少に伴い、5億600万円の減収となりました。

「収益的支出」は、②の484億8,300万円となり、予算に対して、21億6,700万円の不用額が生じました。これは主に、営業費用における動力費、修繕費及び人件費に不用が生じたことによるものです。

この結果、収支差引では、③の31億5,500万円の黒字となり、予算と比べて、④の9億5,500万円好転しております。

### (2) 資本的収入及び支出

「資本的支出」は、⑥の371億3,700万円となり、これに翌年度への繰越額16億600万円を加えると、予算に対して、18億5,400万円の不用額が生じました。これは主に、契約差金（予定価格と契約金額の差額）などにより建設改良費に不用が生じたことによるものです。

「資本的収入」は、⑤の196億4,500万円となり、これに翌年度への繰越額15億6,000万円を加えると、予算に対して、12億1,100万円の減収となりました。これは主に、建設改良費の繰越や不用に伴い、企業債や国庫交付金が減収

したことによるものです。

結果として、収支差引は、⑦の174億9,200万円の不足が生じましたが、この不足額を当年度分・過年度分の留保資金等で補填した結果、令和元年末の資金残は、⑧の73億3,500万円となり、予算と比べて、18億900万円好転しております。

## 2 収支状況について（2頁）

「1 決算総括表」の主な項目について、円グラフで表したものです。資本的収支の不足額については、収益的収支差引残額、減価償却費等で補填しました。補填した結果、事業運営に必要な資金は確保しております。

## 3 5年間の傾向について（3頁）

5年間の収益的収支及び資本的収支をグラフにしたものです。平成28年度から令和元年度までは決算値を示しており、令和2年度については、当初予算に前年度からの繰越を加えた現計予算を示しています。傾向としては、収益的収入の下水道使用料は横ばい、収益的支出の維持管理費は増加傾向、資本的収入の企業債は増加傾向、資本的支出の建設改良費は増加傾向となっております。

## 4 業務量について（4頁）

管路総延長は、8,291.6kmで、前年度と比べて、9.2km増加しております。また、総人口普及率は99.8%となっております。料金収入の対象となる年間有収水量は若干の増加となりました。

## 5 主要事業について（5・6頁）

「施設の維持管理に関する業務」は、総費用193億800万円となり、「施設の建設に関する事業」は、総事業費201億4,100万円となりました。

6頁には参考資料として、主要事業のイメージ図を添付しております。

左側の下水道施設の再構築についての写真は、80年ほど経過した老朽管の改築前後の管内の様子です。老朽化したコンクリート管の中に樹脂製の管を構築する管更生工法を採用した例です。

右側の図は、浸水被害状況の写真、雨水拡充管のイメージ、整備箇所図となっております。